

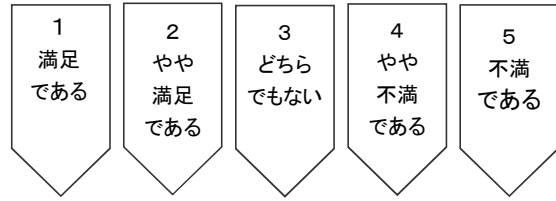
問21 防災福祉コミュニティにおいて、あなた自身がどのようなかたちで組織運営・組織活動に関わっているか、以下を読んで、それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

あなた自身が	①～⑧までの各項目における単数回答%					DKNA
	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちら でもない	4 どちらか といえば そう思わ ない	5 そう 思わない	
① 組織の活動目的を立てている	22.7	37.2	24.6	6.4	4.3	4.8
② 目的達成のための具体的計画を立てている	16.2	39.6	27.2	7.6	4.1	5.3
③ メンバー間のコミュニケーションを図っている	17.7	50.8	18.9	6.0	2.1	4.5
④ 目的達成のための進捗管理を行っている	10.7	37.0	32.2	8.6	5.7	5.7

⑤ 目的が達成されたかの評価・検証を行っている	8.1	30.4	35.8	13.8	6.4	5.5
⑥ メンバーのやる気を高める努力をしている	11.0	38.2	31.5	10.0	3.8	5.5
⑦ 組織がまとまるように努力をしている	14.8	51.6	22.2	5.3	2.1	4.1
⑧ メンバーの参考となるような活動をしている	11.9	37.9	31.5	10.5	3.1	5.0



問 22 防災福祉コミュニティにおける以下のことがらについて、あなたはどのように感じていらっしゃいますか。
 以下を読んで、それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。



DKNA

①～⑧までの各項目に
 おける単数回答%

	1 満足 である	2 やや 満足 である	3 どちら でもない	4 やや 不満 である	5 不満 である	DKNA
① 総合訓練の内容	16.5	55.1	17.4	6.0	1.4	3.6
② ブロック訓練の内容	12.6	44.2	24.6	6.7	1.4	10.5
③ 訓練（総合訓練・ブロック訓練）の回数	15.0	40.1	32.2	6.4	1.4	4.8
④ 組織内の人間関係	21.0	40.1	29.1	4.5	1.2	4.1

⑤ 防災福祉コミュニティの活動内容	12.9	45.6	28.9	6.9	1.2	4.5
⑥ 組織内の結束	17.2	44.6	25.3	7.4	1.2	4.3
⑦ 普段の活動に参加する人数	7.4	27.0	33.4	23.2	4.3	4.8
⑧ 防災福祉コミュニティ自体の地域での存在感	10.3	32.0	34.4	14.8	3.8	4.8

5

あなた自身のことについておたずねします

問 23 あなたの年代のあてはまるものに○つけてください。

単数回答%

- 0.2 1 10代
- 0.2 2 20代
- 0.7 3 30代
- 3.3 4 40代
- 9.1 5 50代
- 32.7 6 60代
- 44.4 7 70代
- 8.6 8 80代以上
- 0.7 DKNA

問 24 あなたの性別に○つけてください。

単数回答%
 (N=403)

83.5 15.3
 性別（ 男 ・ 女 ） DKNA 1.2

問 25 あなたのご職業であてはまるものに○をつけてください（2つ以上あてはまる場合は、主たるもの1つに○をつけてください）。

単数回答%

- 14.1 1 常勤雇用（役員を含む）
- 10.3 2 非常勤雇用（パートなど）
- 15.3 3 自営業
- 58.0 4 無職
- 2.4 DKNA

問 26 あなたが、今の地区に住むようになってから、現在で何年目ですか。

回答者の平均値（年数）

現在で 約

41.9

 年

問 27 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ○）。

単数回答%

- 46.1 1 親しく話をしたり留守を頼んだりする
- 39.9 2 ときどき立ち話をする程度
- 11.2 3 顔が合えばあいさつをする程度
- 0.7 4 ほとんどつきあいが無い
- 2.1 DKNA

問 28 あなたは、阪神・淡路大震災を経験しましたか（ひとつだけ○）。

単数回答%

- 92.8 1 経験した
- 3.3 2 家族は経験したが、自分は単身赴任・学生などで被災地外にいて経験しなかった。
- 1.9 3 経験しなかった→次頁の問 31 へ
- 1.9 DKNA

問 29 （問 28 で「1・2」に○をつけた方にお尋ねします）阪神・淡路大震災が原因であなたや同居されていた方の中で、ケガや病気をされた方はいらっしゃいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

複数回答%（N=403）

- 85.6 1 全員、ケガも病気もしなかった
- 10.2 2 ケガや病気もしたが、入院はしなかった
- 1.5 3 ケガや病気で、入院した
- 3.0 4 亡くなった人がいる
- 0.3 DKNA

問 30 (問 28 で「1・2」に○をつけた方にお尋ねします) 阪神・淡路大震災の時、お住まいになっていた住宅はどのような被害を受けましたか (ひとつだけ○)。

単数回答%

- 17.9 1 全壊・全焼
- 17.6 2 半壊・半焼
- 41.7 3 一部損壊
- 21.8 4 被害なし
- 1.0 DKNA

問 31 地震への取り組みや地震に対する知識等について、あなた自身は、どの程度あてはまると思われますか。以下を読んで、それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

①～⑧までの各項目における単数回答%

	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちら でもない	4 どちらか といえば そう思わ ない	5 そう 思わない	DKNA
① 地震対策について十分な知識を持っている	18.4	48.7	21.0	5.7	1.9	4.3
② 地震防災訓練に参加している	40.6	37.2	11.2	4.5	2.4	4.1
③ 自ら地震対策を十分に講じている	12.6	37.7	32.0	10.0	3.1	4.5

④ 地震対策について、家族や身近な人と話しあっている	20.3	43.7	22.2	7.4	2.9	3.6
⑤ 私は、実際に地震を乗り越えた経験がある	32.0	36.3	15.8	6.4	5.3	4.3
⑥ 私は、地震時にとっさに何をすべきか考えている	24.6	47.7	17.4	3.3	1.7	5.3

⑦ 私は、地震時のとっさのときにうまく行動できる	15.5	37.0	33.2	8.6	2.6	3.1
⑧ 地震対策には、お金をかけている	3.8	22.4	44.6	15.3	10.0	3.8



問 32 あなたの地域では、以下にあげる活動をどの程度行っていますか。それぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

あなたの地域では	①～⑭までの各項目における単数回答%	1	2	3	4	5	DKNA
		ある程度行っている	たまに行っている	どちらとも言えない	どちらかといえば行っていない	ほとんど行っていない	
① 近所の人同士があいさつを行うこと	77.6	13.1	5.5	1.0	0.5	2.4	
② 住民同士が立ち話を行うこと	55.6	30.5	8.6	1.4	0.5	3.3	
③ 住民同士が趣味やスポーツを一緒に行うこと	28.4	28.2	21.7	11.5	6.0	4.3	
④ 住民同士が一緒にでかけたり、買い物や食事をした りすること	15.5	32.2	24.1	12.9	10.7	4.5	
⑤ おすそわけをしたり、おみやげをあげたりもらった りすること	32.5	46.3	9.8	4.1	4.3	3.1	
⑥ お互いの家に遊びに行ったり、来てもらったりする こと	15.8	29.6	28.4	13.4	9.1	3.8	
⑦ お互いにお世話をしたり、思いやったりすること	23.4	37.5	24.8	6.4	3.3	4.5	
⑧ ちょっとしたこと、助け合いをすること	27.2	40.8	20.3	4.8	2.6	4.3	
⑨ お互いに友達になること	25.3	34.6	25.5	5.7	3.1	5.7	
⑩ 住民が主体となって訓練・行事・イベントを企画・ 開催すること	32.0	30.8	17.4	7.9	7.6	4.3	
⑪ 地域の訓練・行事・イベントに、住民が参加するよ う促すこと	46.5	34.6	10.7	2.9	2.6	2.6	
⑫ 子どもと大人が一緒に参加できるような訓練・行 事・イベントを企画・開催すること	37.5	33.7	17.2	3.8	5.0	2.9	
⑬ いろいろな住民や商店街・地元の企業の人たちが地 域の活動に参加できるように、間に入って仲介して くれる人を見つけること	15.0	23.2	30.8	13.6	12.4	5.0	
⑭ 商店街、地元の企業などと連携すること	13.8	20.5	30.5	12.6	17.4	5.0	

問 33 あなたは防災福祉コミュニティ以外の地域の組織・団体の役員を兼任していますか。

単数回答%

87.8 1 はい (→付問へ)

11.2 2 いいえ

1.0 DKNA

付問 上記で「1はい」とお答えした人にお聞きします。役員を兼任しているのはどの団体ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

複数回答% (N=368)

67.7 1 自治会

8.7 2 婦人会

20.1 3 老人会

6.0 4 子ども会

5.5 5 ふれあいのまちづくり協議会

6.0 6 まちづくり協議会

17.1 7 民生児童委員

29.1 8 青少年児童委員協議会

33.7 9 防犯協会

2.2 10 PTA

2.7 11 消防団

18.2 12 その他 ()

0 DKNA



問 35 神戸市では今後も防災福祉コミュニティの活動を支援していきたいと考えています。現在の防災福祉コミュニティについて、①あなたが普段の活動で感じていること、②あなたが防災福祉コミュニティの今後の課題だと思っていることをお書きください。

■普段の活動で感じていること

- ・ 近隣地区との合同活動をやっていくのも必要である。
- ・ 災害発生時に何か対応出来る組織をつくりたい。地域全体の動きが見える団体は、防コミとふれまちであり、うまく使って「動く」組織をつくりたい。
- ・ 地域でのブロックごとの訓練に参加して消火器訓等、毎年のように災害に備えて何度でも活動を続けていくことが大事である。いざという時のためにも参加して資機材等にも触れてみるのが大事なことであり、防災意識がまだまだ足りない。
- ・ 今までのマンネリ化していた時期が、ある程度前向きな考え方で活動できるようになってきたが、住民の防災意識は年々低下している。
- ・ 地域の人への啓発も大切だが、自分自身への振り返りにもなり継続が大切である。
- ・ 防コミ活動の中で、防災に対する意識と知識が強く持てるようになり、災害に直面した時には、ある程度適切な行動がとれる。
- ・ 普段、防災訓練に参加しているが、実災害で生かされるか疑問であり、18年前の震災のことを思い起こしても自分自身と家族の事で一杯になり、何ら地域のお世話をした覚えがなく反省している。
- ・ 自治会活動を通し、地域に住む人たち同士の信頼関係を作りたい。
- ・ 訓練するにあたって、人と人とのつながりの大切さを感じている。
- ・ 消防団がしっかりしており、防コミと連携がうまくいっている。
- ・ 学校、消防の皆さんはじめ各諸団体がよく防災訓練などに参加してもらい感謝している。
- ・ 阪神大震災時のアマチュア無線の活用体験から情報の伝達がいかに重要かを認識しているため、地域の防災に何らかの形で役立てばと活動を続けてきた。防災についても福祉の面でも、その形がどんどん変化しており、当時の避難所開設や運営がそのまま活かさないが、経験したことは貴重である。防災に関する人が幅広い年齢層に広がることを期待し、同時に多くの人々が少しずつその役割を分かち合ってほしい。

■やっていた良かったこと

◇地域住民の連携等

- ・ 横の繋がりと協力など助け合いが広がっていくのが嬉しい。
- ・ いろいろな方々と知り合いになれて良かった。
- ・ 地域住民の連帯感が深まっている。
- ・ 役員（ブロック長）をやったおかげで地域内のコミュニケーションが図れた。
- ・ 地域住民のコミュニケーションが取れたことにより、お互い助け合い支える気持ちが出来てきている。
- ・ 小学校と連携して防災訓練ができた。
- ・ 複数の防コミによる共同活動により、他地区の防コミとの連携がとれつつあり、防コミ内で種々の活動を行うことにより防コミメンバーの親密さが増している。
- ・ ふれまち協議会と一体的に活動することがプラスになっており、防コミの認知度を上げていきたい。
- ・ 以前は自治会、婦人会、PTAなどの各団体がそれぞれ活動を行っており、地域内で顔を見かけるが、

どの団体の役員か分からないという状況であったが、防コミの活動を通してお互い連絡をとりあうようになり、防コミ以外の各団体の活動の幅が広がった。

- 当地区の商店街は地域密着型で、地域の囲い込みをイベントや神社の行事、神事に協賛の形で種々行っており、そういう点で防コミの活動も情報交換、情報交流の場としても大変良い。
- 役員になるまでは、自宅、勤務先の往復で『住んでいる』実感があまりなかったが、地域の状況が良く分かり『住んでいる』実感が生まれたので、防災福祉コミュニティはすばらしいシステムである。
- 地域の住民や子供たちと顔なじみになり、道であったとき、向こうから声を掛けられることもある。
- 同じメンバーで同じ発想の活動をやらずに、できるだけ新しいメンバーと新しい発想で、失敗を恐れず、いろいろなことに取り組みめるよう人事及び組織形態を常に変えていきたい。
- 消防署員、消防団員等防災に関係している人とのつながりができた。

◇知識・技術の習得等

- 地域の人に少しずつ防災に関して知識が広がっていったことが嬉しい。
- 昨年の近畿地区防災訓練で当地区が演習拠点となり、住民、事業所、保育所、アーケード商店街等が参加した大規模な実践的な避難訓練に参加したことは、避難ルートの見直しなど反省点や改善点をみんなが認識でき、避難マップづくり等防災意識向上に大きな効果があった。
- 防災訓練等の活動に従事することで、防災に関する知識や行動の仕方を学ぶことが出来て具体的に行動ができるようになり、実際の訓練では参加者同士が競えるような種目も取り入れることがとても大切である。
- あちこち研修に出かけ、防災士の資格も取得して、いざというときにどのように行動したらよいのか考えているので、知識だけは豊富になり、危機感を持つことができた。
- 家族等にいろいろな経験をさせることができ、少しでも防災に関心を持ってもらえた。
- 近所の人々の心肺停止状態に遭遇し、救急隊が来るまで心肺蘇生をして病院へ、親族到着に間に合った。
- AED、救急手当等の訓練は大切で、何かあった時にこうだと言うように説明できた。
- 簡易担架の作り方と応急処置と煙テントの体験が有意義であった。
- 津波に対する意識が高まっているのが日に日に感じるようになっており、今後も住民の方々に伝えることが出来るよう訓練を重ねていければ良い。
- 季節に応じて情報（インフルエンザ対策、熱中症、食中毒対策）を得ることが出来て注意でき、地震対策、消火器等も的確に出来るようになった。
- 震度4くらいであればそんなにあわてることは無かったのは、常時の訓練のおかげである。
- 教育委員会発行の「幸せ運ぼう 中学用」は、防コミのバイブルとなりそうなので、会議の資料で利用できる。

◇その他

- 地元中学生による防災ジュニアチームとして誕生し、現在、毎年新しい部員が育ち、地元防災部員とジュニアチーム同士、絆を深めている。
- 防コミを結成し、結成披露式訓練を実施し、地域住民に防災についての意識を持たせることで喜びを感じた。その後は、毎年総合防災訓練を実施している。
- 新しいメニューを組み込み、皆が喜んで参加してくれている。
- 地域社会に少しでも貢献できているかなと感じている。

■積極的に取り組んでいること、工夫していること等

◇会議運営・関係者間の連携等

- ・自治会、老人会、消防団、学校等との連携作業であることから、それらの人間関係作りに気を配っている。
- ・私たちの防コミは防災訓練技術も学ぶが、一番重要にしているのは地域住民同士のコミュニティを築くこととし、そのための活動を重視している。
- ・南海トラフ地震災害を想定したときは、防災福祉コミュニティだけでなく、近隣工場勤務者との連携が必要となるので、神戸市とのパートナーシップ協定を締結している。
- ・住民と事業所、行政機関が一体となって（中学校）訓練など実施できるのも、住民と事業所との協定のおかげである。
- ・東日本大震災までは、組織的な効果のある活動は殆ど行っていなかったが、実行力のある委員長、問題意識のあるブロック長の体制になったので、今後、地道な活動を実践していきたい。そのため、メリハリのある会議を開催、議事録作成を徹底し、年間活動計画をしっかりと議論して策定した。これからは防災ニュースという広報誌で、防コミの活動を住民に周知することを手がけたい。

◇訓練全般

- ・訓練ごとにアンケートを実施している。
- ・毎年6月にブロック訓練を設定し、訓練開催までに4月～事前学習（市民救命士コース、市民防災総合センター研修、防災リーダー研修）をブロック新自治会役員に受講してもらい、防災技術に関する知識体験を積むことで「新しい自治会役員が初めて心を合わず場となり助かっている」との言葉ももらい絆作りに役立っている。
- ・当地区は海拔が低い為、東南海・南海地震発生時等、迅速な避難が必要であり、いろいろな状況時の津波訓練を実施して、いざという時、あわてずにみんなを誘導し避難出来るよう訓練に努めている。
- ・命令口調でやらされるのではなく、各ブロックのブロック長と副ブロック長が中心になり、楽しみながら、60～80歳の男女も協力し、バケツリレー、放水、消火と次々に訓練を実施していく姿は本当にいいものである。また、ブロック長を通じて訓練写真や動画をメンバー全員に回覧してもらっていることも大変効果が上がっている原因である。
- ・消防用ポンプの点検を兼ね、設置場所での訓練の実施している。
- ・津波対策のビデオを見て参加者自身がどう行動を起こせばいいかを考えてもらえた。
- ・参加者同士が競えるような種目も取り入れることがとても大切である。
- ・昨年の避難訓練で地域ごとの避難場所への避難と誘導を行い、子供がいない人も校内の様子が分かることが出来たので、参加された人に喜んでもらえた。

◇子どもたちを対象にした活動等

- ・子供を対象にしたイベント（例：だんじり、盆踊り、工作教室、もちつき等）を数多く実施しているが、子供を引っ張り出せば両親や祖父母まで巻き込めるので、結果的に地域相互のコミュニティ作りになると考え活動している。（マンション住民にもこの方法が有効である。）
- ・子どもに人気の筒先放水、全体参加のバケツリレーは人気がある。
- ・夏休みの1ヶ月間、自治会主催で朝6時30分からラジオ体操を実施しており、その期間の2日間、ラジオ体操終了後、消火器訓練を実施するが、多くの小学生が参加してくれている。
- ・若い人に参加してもらえるよう中学校、高校にお願いしている。
- ・小学生1年から6年生の防災学習を年1回3日間にわたり実施している。1日目…炊き出し訓練、避難訓練、煙体験（全校生徒対象）、2日目…緊急時持ち出し袋を作成する訓練（1年生）、心肺蘇生法訓練（6年生）、緊急電話のかけ方、応急手当訓練（5年生）、3日目…応急給水訓練（2年生）、消火器取扱訓練（3年生）、防災器材の使用説明と布バケツを使用しての消火訓練（4年生）。この訓練は何年

もかけて続けている。

- ・小学校で毎年1月17日頃、6年生を対象に震災語り部及び「震災を忘れないピアノコンサート」で「幸せ運べるように」を全員で歌うなど小学校の先生生徒はじめ多くの人に参加してくれている。
- ・防災ジュニアチームの活動は地域住民同士の防災意識高揚の活動の潤滑油になっている。
- ・中学1年生によるジュニアチームの結成、防災訓練の実施により、防災知識、意識を向上させると共に、いざという時には、必ず役立ってくれると期待している。
- ・町として「ふるさとづくり」を合言葉に、小中学校の子供たちとのかかわりを多く持ち、将来の住人として（大半が出て行くが）活動に参加してもらえるようにしている。

◇その他

- ・活動に役立つように市民救命士のインストラクター資格や青パト実施者証明を取得している。
- ・市民救命士講習会への関心が高まり参加者が多くなっているが、総合防災訓練の内容がマンネリ化していたので、地震起動車「ゆれるん」に来てもらって少し変化をつけたところ好評であった。
- ・さまざまな活動、しないといけない活動はよく理解しているつもりだが、地域にいる以上は私たちも被災者になるので、はたして活動するような精神でいられるだろうか不安である。
- ・神戸の地震のときは婦人会長をしていて様々な活動をしたが、その時の経験も活かしたいと思うので、そういう活動の経験談を聞き、参考にするのも良いと思う。
- ・防災リーダー講座にて学び、関連の資格を取得し、会議にて役員と勉強会を実施したところ、「津波でんでんこ」の教訓について、知っている人が少数であったので、関心を高めて日常からの啓発活動が必要と感じた。今後できれば、年数回、勉強会でお互いにコミュニケーションづくりに努めたい。
- ・ポンプ等、工具の点検を絶えず行っている。
- ・常に新聞、インターネット等にて、情報を集めて正しい認識を持つように工夫している。
- ・人のため、役立つような活動を心がけている。

■解決すべき課題

◇人員確保、後継者育成等

- ・人材育成及びメンバーの固定化が課題である
- ・若年層の取り込み（組み入れ）が課題である。
- ・地域の若い人を防コミ要員として、現在募集しているが、何分にも入会していただけない現状であり、もっと、地域全体で防災に対する知識をもってもらえれば、町が良くなる。
- ・40～60歳代のリーダーが不足している。
- ・定年後から70歳までの年代の地域活動が少ない。
- ・団塊の世代の男性の方たちを取り入れたいと思うが、なかなか難しい。
- ・何とか若い役員を育てたいが、その手立てを見出せていないので、今後とも考えていきたい。
- ・超高齢地域なので、災害が起これば、要援護者は自助では大変難しいので、青少年層に防災に対する意識を持ってもらわないと、将来が心配である。
- ・「南海トラフ巨大地震に備えて」の広報活動を数多く行うことで訓練参加者の増加に繋がる。
- ・高齢化が進み、知識、人脈は申し分ないが、行動力に欠けるので、今まで以上に学校と連携して活動し、若い世代になる子どもを通じて、情報を発信し、興味を持ってもらうようにしたい。
- ・人口は減少、高齢者が多く、小学校ももう少しすれば統合され、全体として商店街の店もなくなり、地形も山麓の危険地区で高低差が大きく、お年寄りの外出には危険が多い、また、防災訓練でも高齢者のいざというときの対処がわからなく、自分が自分を守ることしかできないような状態である。
- ・高層住宅に居住する住民はなかなか階下に下りてこない。

- ・自治会、防コミ等への依頼だけでは固定化した方々のみの参加となるので、事業所の参加をどのようにすすめるか非常に難しい。
- ・活動の担い手が長期固定化しており、特に男性の参加が少ないが、定年退職し地域のボランティアをしたいと考えておられる人も多いので、そういう人たちに参加してもらえるような方策を考えている。
- ・各ブロックのメンバーを集めるキーになっているブロック長・副ブロック長について、訓練指導時に、「怒らない、叫ばない」をモットーに、参加者から「訓練に参加して楽しい！」という気にさせる様な人を増やしていきたい。
- ・活動する人に限りがあるので、ピンポイント的に活動する人をピックアップする必要がある。
- ・寄合世帯のため、強いリーダーシップのとれる後継者づくりの必要がある。
- ・事業所の代表として参加しているので、仕事を退職すれば、この地域の防コミに関わる立場でなくなるため、自分の取り組んでいること、要援護者支援も含め、後を続けてくれる人材がいない。
- ・各役員さんも高齢の方が多く、若い人の参加を求めていかなければならないので、他地区の防コミとの交流を図りたい。
- ・防コミの現状は行政が期待している点とギャップが大きく、役員は他団体との兼務も多く、専任的な人材が少ない。
- ・防コミの代表は、ふれあいのまちづくり協議会の委員長が兼任することになっており、いざというとき地域の諸団体（ふれまちには自治会、青少協、老人会、マンション管理組合、NPO 等地域のすべての団体が加入している）を動かせる。但し、普段の防災訓練等の防コミの行事はふれまちの防災防犯部会長が中心になって計画、実行してくれているが、防犯も兼ねているので行事が多過ぎて任期（1年）後には留任してもらえない。

◇住民意識等

- ・住民の地域参加意識の低下の傾向に十分な注意と対策を考えていく必要がある。
- ・地域全員が参加することが望ましいが、残念ながら未達であり、全員への意識づけがもっとも大事である。しかし大きいグループではなかなか進展しないので、小グループでその地域（近所）でのことについて議論すべきである。
- ・防災訓練をしても義務的に参加している方が増えており、学校としても、小中学生にもっと参加を促してほしい。
- ・防災福祉は男性の仕事だと思っている人が多いので、“女子力”が活かされるような組織にしたい。
- ・町自体の人口が多く、全員に関心を持ってもらうのが難しく、一般の人と我々コミュニティの人間との防災に関する温度差が大分ある。
- ・区域全体で問題点の共有化を図ることや地域環境による温度差をなくし、コミュニティ全体の問題として取り組んで活性化すること。
- ・ニュータウンは、防災的には問題がないので、住民も他人事の様であり、地震以外災害はないと多数の人は考えている。大きな災害でなくとも高齢化が進んでおり、要援護者の救助などとてもできる状態でなく、自力でどう逃げるか等その方法を住民にアピールしていきたい。
- ・自分から進んで活動をしておらず、上から言われたことをしているだけで、地域住民がもっと自主的に活動するように小さな自治会単位での訓練をする。
- ・阪神淡路大震災から 18 年が経ち、やはり人々の意識の風化が見られる。しかしながら、自然災害への恐れは誰もが持っているので、防コミ活動を通じてその意識を高めるよう工夫している。
- ・防コミとふれまちが一体であり、防コミのあり方と意味が、そしてなぜ防コミが必要なのかメンバーが共有できていないので、今後は防コミの役割を理解してもらえるよう努力する。
- ・高齢化による意見のすれ違い。平成 7 年度より数年を経て当時の状況が風化し、また、住民の意識、

- 協調性、共同生活、相互関係等の意識不足が目立っている。当計画を実施、実行するためには何が必要で、どのような協力体制が必要なのか、今一度見直すことが必要である。但し、地域性にもよる。
- ・震災後、地域に移住してきた新市民は地域組織について無関心であり、関わりたくない人のほうが多い。子育て家庭は育児と教育で手一杯で他のことにかまっていられない。
 - ・社会奉仕活動より個人的な気ままな活動に走る人が多い。
 - ・種々の町の活動がどれもボランティアだけでやっていくのは、限界に来ている。特に、役員の高齢化、各種団体の兼務状況を見ると、住民のやってもらって当たり前というような、甘えの意識を変えていく必要性を痛感している。
 - ・防災に関して、現実、あまり関心がないようであり、18年前の体験した人の考えと実際に体験していない人の違い、温度差がある。訓練を実施しても、ただの参加と思える態度に感じられることが多々見られるので、役員の人々が防災に関して積極的に前を向いて欲しい。
 - ・役員は一所懸命だが、住民にあまり関心がない。
 - ・防災に対し、危機感を市民皆がどれくらい（多すぎても、少なすぎても）持つのか問題である。
 - ・今の時代、日々の生活でリスク（自然災害、交通事故、公害による健康被害等）がいっぱいあるので、高齢者も幼児も健康で安全に生活するためには、もっと皆が自分で自分を守る自覚を持たなければいけない。

◇活動内容、訓練内容等

- ・防災訓練の日時、内容等を1か月前より掲示板等を利用し、知らせているが、参加する人が限られているのが現状である。
- ・広い校区を考えると、数少ない委員のみでは広報活動以外は難しい。
- ・防災マニュアルを各管理組合で作成されているが、作成するについてのアドバイスを受けられるような有識者等を派遣できるようにしてほしい。
- ・防災セミナーを増やしていくことと神戸市消防局の協力をもっと強化してほしい。
- ・これまで防災福祉コミュニティの中心は、消火活動や避難・搬送などある程度体力の要る内容が多かったが、高齢化が進み、メンバーの中に若い人材が少なくなる中、訓練の実施が難しくなっているため、「要援護者の安否確認や避難支援」「避難所の運営」などの活動へシフトしていきたいと考えている。そのためには当コミュニティだけの力では何ともしがたく関係機関と連携していくことが不可欠となっている。また、どんな活動をするにしてもメンバー同士の「和」が保たれることがなよりの条件である。
- ・青竹で作った簡易担架で太い青竹が折れる事故があり、実際の場面でも想定されるので、その点の吟味が必要である。
- ・小中学生への教育が重要であり、特に体験に基づく教育として、防災センターの活用やブロック訓練への参加をカリキュラム化してほしい。
- ・小学校との連携だけでなく、中学校やその他団体（高校、大学）との活動も必要である。
- ・自分の周りの地域でどのような災害が起きるのかを考え、どのような行動をとるべきか常に考え、地域で話し合う場が必要である。
- ・防災避難訓練と学校の先生を巻き込んだ消火訓練を考えている。
- ・外国人も入り、避難訓練を行うなど仲良くなることから始める必要がある。
- ・当初は大変にぎやかにたくさんの人々（商店街、市場、ショッピングセンター、自治会、婦人会等）が参加されていたが、年々集まりが減ってきている。
- ・防災意識は向上しているが、大きな自然災害が起きたとき、知識だけで行動が伴うのか疑問である。
- ・総合訓練により住民の意識が高まるので、同じ訓練ではなく新しい発想の企画が必要である。

- ・地震災害にしても組織としての対応は、高齢化で無理であるので、先の震災では電気関係でポンプは使えない、水は使えないで無力であったことから、当地域で、実際にどのような災害が発生するか想定できていないので、要点をひとつに絞った対処訓練が必要である。
- ・繰り返しの訓練で緊急時の対応が身につくので、小学校区だけではなく隣保のような小地域での訓練も必要である。
- ・南海地震による津波が問題になっているが、神戸の地形上、崖崩れ、山津波の対策等訓練が必要であるので、何か良い役に立つ訓練を行ってほしい。
- ・非常食品を使って美味しく食べる料理講習会を開くなど各家庭の非常食の備蓄はどのようにすべきかなど啓蒙する必要がある。
- ・当地区の防コミの喫緊のテーマは、津波よりも、古い住宅地なので、道も狭く、いつ起こっても不思議ではない住宅地の大火の予防対策である。
- ・現在の防災訓練はどうしても緊迫性がないので、夜間の防災訓練も実施すべきである。いつでも家で明るいときに災害が襲ってくるとは限らないことをもっと考えるべきである。
- ・今後、予想される甚大災害に対処できる実力養成のためにも、日々の心構えが表面に現れるような不意打ちの訓練を取り入れる企画など、現行の定例防コミ大会を発展・進化させることはできないか。
- ・現在の組織では、活動が防災中心となりがちで、まちづくりに弱く活性化が難しい。
- ・地域の核である自治会の役員任期が1年であることから、計画的、組織的活動がほとんどされていないので、改善しなければならない。
- ・防犯や防災の活動は自治会を構成単位とする集合体が基本にあるので、その活動は住民の防犯や防災に対する関心度に影響され、実際の訓練の内容も大事だが、それと平行して常に無関心と対峙して関心を持たせるよう地道で根気の要る活動が求められている。
- ・住民の能力には限界があり、災害時に複雑なことはできないので、災害の初期には住民の助け合いしかあてにできない。よって、日常の住民同士のお付き合いが大事であり、複雑な連携プレーや組織を作っても実行できない。
- ・阪神淡路大震災の時、一番に思ったことは近所の皆さんの安否であり、冷蔵庫にあるものを持ち寄り、炊き出しをし、お米を持ち寄ってマンションの水のタンクから水を頂きおむすびを作り、自治会の人に配った。災害時は、まず、ご近所のことを把握し、行動することが大切で、その後、近隣の自治会ということになる。あまりに広い地域では訓練も大変だし、居住している地域で実のある訓練をすることがいざというときに役立つ。
- ・専門家や被災者の話を聞いたり、被災現場の状況を見る等して、自分たちが被災者になったとき、或いは、ならないために、みんなが真剣に考えるようにならなければいけない。

◇資機材等

- ・古いもので使われなくなったものを処分し、必要なものや新しくてよいものを取り入れるなど、資機材の見直しをしてほしい。
- ・ホース等、消火器具の格納庫が劣化しているので交換してほしい。
- ・組織であれば、ある程度の識別が必要と思うが、活動服等が調達できない。
- ・3~4か月に1回、小型動力ポンプを使用しているが、なかなかエンジンがかかったことがないので、毎月1回くらいやったらと思うが、協力してくれる人材が少なく、高齢者ばかりで無理である。
- ・可搬式動力ポンプを防災訓練時に使用しているが、まともにエンジンがかかったことがない、消火訓練の徹底が肝心なので、値段は高いがボタン式のポンプを希望する。
- ・消火ポンプのエンジンの指導について、高齢者は力が弱いので、ひもを引っ張って始動させる旧式のエンジンを新式のエンジンに変更してもらえれば訓練もスムーズに進む。

◇運営資金等

- ・助成金の運営のあり方については、ボランティア活動であることの配慮が欲しい。
- ・助成金の運営費の用途の緩和の必要性を感じる。
- ・助成金の使途について、防災活動の目的だけではなく、参加する人のための用途も考えてほしい。(飲み物以外は駄目)では活動にのってこない。)
- ・新年度の予算が遅く、4月～7月まで空白の期間があるので、短縮してほしい。
- ・助成金の援助は続けてほしい。
- ・防災訓練の活動を拡大すると出費が多くかかり、運営が難しくなり、訓練を工夫しなければいけない。
- ・運営活動費と提案型活動費に区分して助成対象としているが、申請時に予算は予定のもので、実行した場合との差異は実施内容に照合して助成する等の裁量が望ましい。※提案型活動費助成の申請には、先駆性、地域の特殊災害等と示されているが、災害時を想定した訓練にあてはまるものとは思えない。
- ・助成金を出すから何かをなささいではなく、防コミが考えていることに対する助成金制度にして、もっと地域に密着した活動ができるようにしてほしい。
- ・防災福祉コミュニティ単位の予算配分を世帯数での配分にして、地域各単位でブロック防災訓練が出来る体制の予算とともに中学校防災教育は、教育費で予算化の検討してほしい。
- ・提案型の団体に高額な助成金を出すのではなく、全防コミに広く浅く使い道を限定しない交付金を出すべきである。

◇津波対策等

- ・現在、沿岸部は「津波避難対象地区」「津波警戒地域」の2区分になっているが、もっときめ細かく、低層住宅地域は「津波緊急避難重点対象地区」というような、3区分の最重点地区としての位置づけをして、財政的、物的、人的支援の強化をしてほしい。
- ・津波のことを考え地図を作ったが、未だいつ頃配布なのかかわからない状況であるが、地域の中で活動していれば、何か起こったら誰か手助けする人はいると信じている。
- ・現在、津波マップと防災計画の見直しを行っているので、完成後は各戸配布するので、各自が防災意識、防災対策について自覚するよう啓発などを進める必要がある。
- ・緊急時に利用できる避難場所をたくさん作ってほしい。
- ・災害時高齢者の方も含めてすべての人々の避難が可能な状況が確立できるのか。
- ・津波警報が出た時、要援護者にとって近くの安全な公園まで行くことは遠いので、自治会内のマンションの4階以上が安全ということであれば、被害の少ないマンションの上階に避難させてほしい。
- ・津波災害発生時の要援護者対策として、①高い②すばやく③多くの人を④極力自力避難、これらのことを総合的に考えると高速道路避難場所が有効と考えられることから、当地区には阪神高速道路インターの出入口が複数あるので、側壁沿いにたくさんの方が収容でき、非常用備蓄品の置き場にも利用が考えられるので、行政、住民、所有者の合意で避難場所としての利用させてほしい。

◇災害時要援護者対策等

- ・災害時要援護者対策を進めるべきだと考えており、自治会、民生委員、老人会、マンション管理組合等と協議して、個人情報を守りながらどう対応できるか、今年からはじめたい。
- ・地域の福祉センターが福祉避難所になっているので、地域の諸団体(民生委員等)と連携して要援護者の避難訓練をしてみたい。
- ・要援護者に対する処置、その要領を防コミが主体となるにしても、各自治会、老人会、民児協、ふれまち等との連携がかかせられない。

- ・いつ、誰が、誰を支援するかの具体的計画づくりをすることが課題である。
- ・区域内の要援護者の様子がより詳しくわかるように、それぞれの地区の人に協力をお願いしたい。
- ・災害時要援護者支援条例に対しては、以前から気にかけていた問題であり、大変意義のあることであるが、支援者側は、ほとんどがコミュニティ、自治会、個々の団体等と掛け持ちで活動を行っている（私自身5役）また、高齢者が多いため、支援者人員確保が難しい。
- ・津波時に障害を持っている人々の救援をどこまでできるかが心配である。
- ・一部の有志がボランティアで重い責任の任務を任されているので、有償化すべきである。
- ・条例を作っただけでは、地域で要援護者支援をするのは難しいので、行政機関は、縦割り（消防訓練～消防署 避難所～区総務課 要援護～危機管理 まちづくり～区役所）であるが、決め細やかな指導をしてほしい。
- ・要援護者への支援活動が計画されているようであるが、防コミでは無理なので、行政が主体となって実施してほしい。
- ・災害弱者となりうる高齢者、障害者等の皆さんと普段から顔の見える関係をつくり、いざという時に支援できる体制づくりをしたい。
- ・有事の際、災害弱者を短時間で救済するため、災害弱者の現状把握、そして安否確認をどのような手段で行えるかが今後の問題である。
- ・避難誘導訓練は未実施のため、今後、実際の避難活動を通じて人員の確保方法、誘導員の配置、歩行困難者の避難介助方法などの訓練が必要である。
- ・要援護者対策は地域全体で話しにくく、ニュータウンなので、町ごとに住民の年齢が異なり一つの解決方法は難しく、各町内ごとの単位での対応が必要であるが、進めにくい。
- ・災害時要援護者支援について、市の条例で決まったが、これまた大変で、してもらえるのが当たり前の高齢者が増え、コミュニティや他の団体では手が回らない。

◇避難所開設・運営等

- ・実際に津波等発生した場合に当地域での避難場所は、広報紙等にて見て知っているが、その場所が公共施設でその場所の管理者等不在の場合、どのように対処すべきか不明である。
- ・避難場所の見直しが必要であり、地域による場所を決めているが、近くに行けず、遠くへの避難を余儀なくされるので、消防局が中に入り、取り決めてほしい。
- ・避難所を開設するときの訓練について、実際の時は高齢者も子供も一緒に逃げることになるが、まずは高齢者と子供については分けて考えていった方がいい。
- ・避難所運営マニュアルに加えて地元の調整が必要（指示できない）である。（小学校は平常時20時頃まで教師が居られるが、土日祭振替休は不在である。学校施設管理会が許可された部分以外については、利用できない。許可された鍵を預かった人と連絡が取れないと運動場にも入れない。施設管理会運営も25年度以降規約が変更される。など）
- ・避難先での運営や行政のバックアップ体制がどのようになるのか不明である。
- ・当地区は、大規模災害は考えにくいだが、インフラ停止に伴う一部の一時的避難が必要となった時、どのように運営体制を設定するのか迷いがある。

◇地域コミュニティ全般に関する課題

- ・地域が広く多数の自治会があるので、全体で行事を合同開催することが難しく、積極的な参加がやや少なく一部地域が置き去りという事態もあり、いかに組織していくかということに取り組まなければならない。
- ・現在、役員が男性ばかりであり、女性の役員、委員を送り出し、さらに活動の輪を広げ、ブロックご

との活動を充実させることを考えていく予定である。

- ・当防コミは各自治会、婦人会、民生児童委員協議会などで構成され、お互いに連携をとって活動することになっているが、一部自治会主体の活動になっているため、現体制では、一般の役員等（防災リーダー含む）が他の任務を兼務しており、防コミ専任の3役の負担が重い。
- ・防コミは地域内の各種団体の集まりであり、各種団体もそれぞれ防災福祉についての目的ももっているため、その団体とどう調整するかが問題である。
- ・現在、まちづくり協議会が主体であるが、委員長も行政からの多くの行事や他の催しなど大変忙しく、これ以上のことはできない状態であり、私たちも協力しているが、防コミ本部を新たに立ち上げることは無理である。
- ・自治体（神戸市）にとって、「自主防災組織」の形成に関心はあっても、コミュニティ環境の安全改善には必ずしも熱心でないが、コミュニティ防災を推進する場合、①コミュニティ防災は、行政防災と目的は共通だが、その一端を担うものではない ②コミュニティ防災を通じて、地域防災を総合的に推進する ③神戸市による制度面の環境整備と支援 がポイントになるので、地域の防災まちづくり活動は「地域的な公益性」を安全安心な側面から追求し、諸施設の改善や体制の整備へとつなげていくものであり、それはコミュニティ活動を通じた自治的取り組みによって可能と考える。この点を再吟味していただき、地域協働の防災まちづくりが開始され、推進される仕組みを支援制度として準備した具体的な方策を講じてほしい。
- ・防コミ地域内に組織されていない地区があり、商業地においては災害が発生した場合、昼間と夜間では要援護者の安否確認等の把握は困難である。昼間、会社等で自衛消防隊が組織されているところは良いが、夜間、繁華街で災害が起こった場合、どうすればよいか不安である。
- ・商業地、住宅地、また昼夜で対応が違うので、一まとめにするのは問題がある。
- ・自治会数が30を超えており、範囲が広すぎ、会議、訓練等の活動に、一部地域の自治会の参加がないので、数ブロックに地域を分割し役員を選出しているが、訓練等を行うには予算が少ない為、十分な活動ができない。また、ジュニアチームが設立されて、提案型活動助成金で生徒のベストを作成しているが、総合訓練等に参加する場合、学校関係は市教育費など処理をお願いしたい。
- ・生徒は、地域の防災の担い手として心強く感じている。
- ・震災の経験をいかに伝えていくか。防災福祉コミュニティだけでは、地区全体の状況は把握できないので、自治会その他の団体との連携が必要。その中心の役割が防コミの本筋である。
- ・防コミは何ができるか、メンバー間で話をして決めておく。そしてできることは年間の中でいつ実行していくのか（毎年の積み重ねが大事）、防災情報をどうするか、行政等との連携をどうとるのか、定期的（6 か月毎）に各家庭に知らせるため自治会の掲示板を活用するのか、事業参加をどのように進めるのか、非常に難しいが、自治会、防コミ等への依頼だけでは固定化した方々のみの参加となる。
- ・現在の役員構成が男性ばかりであり、女性の役員・委員を送り出し、さらに活動の輪を広げ、ブロックごとの活動を充実していくべきことを考えていく。
- ・何でも地域にまかせている行政、受ける市民は7~8の役職を受けている現状で、いろいろと組織ばかり作らないでほしい。また、もっと市区の職員が活動して地域の応援をしてもらわないと本当の防コミは作れない。
- ・神戸市（各部局）からの要請が多すぎ、消化不良気味である。例えば、防災訓練をする場合、警察への手続き、消防署、危機管理室、消防団、小学校等への依頼、住民への周知（ビラの作成から配布）等、大変な作業量である。
- ・輪番制の役員で構成されていることは、長所は地区全体が数年に一度役員経験にて意識が高まるが、防災組織として「地区防災リーダー」の制度化を提案する。そのリーダーが防コミ会議で体験を通じて毎年積み重ねて多くの地区リーダーの輩出が可能と考える。

- ・基本的なところで本末転倒であり、防災福祉コミュニティが神戸市のお手伝いをしているのである。
- ・行政は課題を出すのが、もっと地域の事情を良く知り、フォローする姿勢が欲しい。
- ・本コミュニティの立場、位置づけは理解できるが、個人と地域の組織のあり方が上滑りしている。
- ・地域活動を進めるにあたっての行政の援助が少ない。

◇その他の課題

- ・運営体制の早期確立。
- ・防災計画書作成と訓練の実施。
- ・地震発生時に対応するマニュアルづくり。
- ・災害時の活動計画、シミュレーションが不十分である。
- ・災害発生時の強靱な運営体制がとれていない。
- ・設立後、約 10 年経過しているが、規約そのものが実態にそぐわず、矛盾があるため、2～3 年前より検討委員会を設置して、今年度の審議検討している。
- ・ライフラインの使用ができない状態で考えられるのは、備蓄資材の活用であり、殆ど学校等に置かれているが、水、缶詰等、賞味期限があるものの管理は誰がしているのか、また、使用の許可は誰がするのか等が伝えられていないことが不安である。
- ・ジュニア防災学習に関して、行政関係部署の連携体制を確実に実施してほしい。(例：消防署と教育委員会の情報共有と合同企画・協力等)
- ・行政指導面での横の連携強化（バリアフリー、避難所における援護者、健常者の住み分けなど）をしてほしい。
- ・既にある組織は何でも出来ると考えているようだが、地域差や環境の違いに対する配慮が足りない。
- ・消防団の活動が、外部に見えない。
- ・電子メール等のメディアを活用した消防署と各防コミとの連絡網を確立してほしい。
- ・要援護者情報の把握・管理や地域にたくさんある組織の災害時の一元化について、前もって役割分担等、検討すべき課題は多い。
- ・倉庫（防災）管理表を作成し、防災、災害に必要な備品整理・設置する。
- ・防コミ活動の参考にしてしているため、防災行政無線を非常時だけの放送ではなく、災害発生が予測される情報の発信も考えてほしい。他市では他の使用もしている。
- ・防災行政無線を設置しているが、その情報を地域にどう周知すべきか、具体的な手法がよくわからないので、活用指針等を作成してほしい。
- ・災害時において重機の使用できる運転手や医療関係者の確保が必要である。

■その他

- ・このアンケートを見て、大きな災害があった時の備えが全く出来ていないことを反省しているので、早く本番に備えてどうするかを全員で話し合わなければいけない。
- ・備えること、考えるべきことがもっとある。
- ・活動がまだ短期間のため、よく理解していないが、限界もあり、いろいろと考えを持った人たちがおり、良い面と悪い面（まとまらない）があって難しい。
- ・自治会の防コミと工業会の防コミとでは組織、形態が異なるので一括りで活動のあり方を捉えるのは、難がある。
- ・消防署の支援に感謝している。
- ・私たちは復興住宅に住んでおり、借り上げ期間があと数年であるが、この活動が他へ移っても活かせることができるか、また、他の地域になじめることができるのかなどいろいろなことを考えざるを得

なく、一番のネックになっているが、できる限りの協力をしていくつもりである。

- 神戸市が活動されている内容は周知されていない。
- 防コミメンバーの大半は2～3年で代わるが、防災の基本を行政として指導できているのか。まずは、防災のプロが指導し、その後、地域の防コミが地域に合った防災計画を立てるのが手順である。
- このアンケートは防コミの活動実態をよく知らない人が作成したような項目が多い。
- 阪神淡路大震災の際、消防分団員は消防団の召集で、地域に一人もいなかったのが、自分たちの生命、財産を始め、地域は自分で守るのが本意である。
- いつの間にか個人情報保護が蔓延し、肝心の相互扶助が忘れ去れているので、新市長に期待している。

問35の自由記述は、重複意見等を集約し、すべての意見を掲載していますが、表現等につきましては、地域名等を伏せ、誤字脱字を修正した上で、語調を整えて掲載しています。



ありがとうございました